



党東部
明幌支
公札総
第3号

地方分権新時代へ

支庁制度改革条例案可決!

道議会は六月二十八日未明、

高橋知事の二期目の最大の公約でもあった、総合振興局設置条例(支庁制度改革条例)案を、公明などの賛成多数で可決した。一〇〇年近く続いてきた十四の支庁体制は終えんし、北海道は道州制もにらんで新たな地方分権の時代へと突入する。

六月二十六日、予算特別委員会の知事総括質疑を終えるまでは、さほどの混乱なく順調な議事進行となっていた。知事提出の補正予算についても、民主・共産も賛成して全会一致で承認

したところであった。

しかしながら、民主党は、支庁制度改革条例案が付託されている道州制・地方分権調査特別委員会(特委)での徹底審議を要求。すでに、支庁制度改革の質問についても、予算特別委員会

公党間の約束よりも身内の

内紛回避を優先した民主党

が、民主党はここで継続審査の動議を提出、これが否決されるや委員が退席という暴挙に及んだ。ここで一旦会期が延長され、徹夜しかも土曜日の議会というきわめて異例の状況に陥った。公明党としては、一時、それでもなお、民主党が円満に採決に応じるならば、会期の再延長も考慮すべきことを自民党にも打診したが、

異例の特別委員会で審議充分

で知事が直接答弁していることから、当初、民主党の要求には応じられないとの空気が強かったが、円滑な審議運営を条件として、特委を再開することになり、知事が異例の出席を行い、民主党議員の質疑も行った。特委は持ち時間無制限であり、充分な審議の後、無事質疑は終局した。暫時休憩の後、委員会採決が行われる運びであった

新聞記者の取材で、民主党内に条例賛成派が何人かいて、それが公になれば党内の結束にひびが入ることを恐れた執行部が、全員退席という行動に出たとの情報が入った。審議時間の長短ではなく、あくまでも党内事情での継続というのでは、仮に条件を飲んでもその後採決は全くの不透明で、かえって議会が混乱すると

の判断に立って、公明党としても本会議採決やむなしとの結論になった。

今回の条例案において、確かに知事をはじめとする部局の事前対応が後手にまわり、地域に迷惑を掛けた点がある反面、内容については、わが党が主張してきた支庁制度改革と車の両輪とすべき地域振興支援条例(仮称)案の検討に早期に着手することを知事が明確に答弁したため、地域振興に一定の道筋がついたため、条例案には賛成した(裏面記事参照)。今後、知事を先頭に振興局地域となる地域の振興策について、地元との協議を綿密に行う必要があることを知事にも申し入れた。

本会議でも、民主党は議人としての責任を放棄し、百年に一度の大改革といわれているこの条例案の採決に欠席し、道議会に情けない歴史を残した。

北海道洞爺湖サミット開催 クールアースデー制定

七月七日
夜八時

北海道洞爺湖サミットの開催を契機として、七月七日をクールアースデーとすることが決まりました。これは、公明党青年局が携帯電話による新しいタイプの署名運動を展開し総理に申し入れ、即日実施が決まったものです。七夕の当日は全国で夜八時〜十時までの間の消灯運動が実施されます。皆さんのご家庭でも是非ご参加ください。

公明党北海道本部 青年局行事予定

- 六日十四時 記念植樹
- 茨戸川緑地
- 十八時 環境セミナー
- 丘塚ふれあいセンター
- 七日 八時 街頭演説
- 小樽駅前

